

技術力と創意工夫で作業効率化



病院とリハビリ施設で構成

シンガポール保健省が医療施設拡充政策の一環で進めているジェネラルホスピタル(SGH)キャンパスム・コミュニティホスピタル(アウトラム地区)の再開工事が2020年3月に完成した。施工を担当した五洋建設は、

幹線道路や地下鉄との近接作業など制約条件も多い中、安全・品質管理を徹底。施工上の創意工夫で工期短縮やコスト低減にも取り組んだ。施設規模はSRC・RC造地下4階で低層棟が地上12階建て、高層棟が

アウトラム・コミュニティ ホスピタル新築工事

(シンガポール)

地上19階建てとなる。延べ床面積は約14・1万平方メートル。資材搬送センターや医薬品室、大型厨房、駐車場、オフィスなどが入る。建築本体工事に加え、既存病院と接続する連絡橋やサービストンネルの建設、周辺幹線道路の拡張、既存バス発着場移設など土木工事も含まれ、総施工面積は約21・4万平方メートルに及んだ。着工は16年2月。既存病院や歴史的建造物、幹線道路、地下鉄との近接施工箇所も多く、いかに周辺への影響を最小限に抑え、安全と品質を確保して作業を効率化するかが、高度な技術力が要求される難度の高い工事となった。

「切梁兼作業通路」となる床を配置。その周りに四つの仮設開口を設け、地下掘削と躯体構築を逆打ちで行うことで効率化した。地上躯体にはSRC柱、S梁、デッキ床を採用。鉄骨建て方は3層1節で計画し、約1万ピースに及ぶ部材をタワークレーン5基で取り付けた。コアの壁には自走式型枠を採用し、クレーンの負担軽減を図った。サービストンネルの地下躯体は歴史的建造物や既存病院を縫うように構築しなければならなかった。公衆安全に最大限配慮しつつ低振動、低騒音の施工方法も積極的に導入。地盤や地下水の変動を常時確認し慎重に作業を進めた。同工事ではすべ



地上躯体でも生産性を向上

取り付けた。コアの壁には自走式型枠を採用し、クレーンの負担軽減を図った。サービストンネルの地下躯体は歴史的建造物や既存病院を縫うように構築しなければならなかった。公衆安全に最大限配慮しつつ低振動、低騒音の施工方法も積極的に導入。地盤や地下水の変動を常時確認し慎重に作業を進めた。同工事ではすべ

